

神奈川建築コンクールについて

1 コンクールの概要

本コンクールは、建築文化、建築技術の向上並びに良好な市街地の形成に役立つ優れた建築物を表彰することで、県内の建築物の質の向上を図るとともに、安全で安心、かつ人や環境にやさしい魅力あるまちづくりを推進することを目的に、昭和 31 年から実施しています。

令和 2 年度、3 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施を見送り、今年度は 3 年ぶりの開催となりました。

審査は、住宅部門、一般建築物部門それぞれに学識経験者などからなる審査委員会を設け、「企画力」「設計力」「施工力」、「既存建築物の有効活用、環境、景観、福祉、防災に対する配慮」等を総合的に判断し入賞作品の選定を行い、主催者で構成する実行委員会で決定します。

2 審査経過

今回は、本コンクールの実施を見送っていた間の募集期間を拡大し、平成 30 年 6 月 1 日から令和 4 年 5 月 31 日までに工事が完了した建築物を対象に募集を行い、住宅部門、一般建築物部門合わせて 108 件の応募をいただきました。

審査委員会は、提出された書類、図面、写真で一次選考（書類審査）を行い、そこで選定した 20 件についてオンラインでのライブ配信等による現地審査のうえ二次選考を行い、入賞作品を選定しました。

	応募件数	一次選考通過件数	二次選考通過件数
住宅部門	39 件	10 件	9 件
一般建築物部門	69 件	10 件	10 件

3 入賞作品選評

- (1) 住宅部門 審査委員：内田 青蔵
(写真：最優秀賞「鎌倉大町の住宅」)



「最優秀賞「鎌倉大町の住宅」は、住宅地の隅に位置し、三方を開け放すことができる敷地の利点を生かした開放的な住まいで、内部空間も豊かで、また、その空間を確保するための木構造も熟慮された合理的な方法が展開されている。その自然と一体化された豊かな空間は、審査委員一同納得した質の高い作品である。

なお、あまりにも開放的なため、温熱環境などの処理に関しての質問が出たが、周囲の雑木林などが機能し、建物としてのコントロールは、ほとんど必要がなかった、という返答を頂いた。」

- (2) 一般建築物部門 審査委員：大原一興
(写真：最優秀賞「Port Plus 大林組横浜研修所」(上段)及び「開成町庁舎」(下段))



「最優秀賞の「Port Plus 大林組横浜研修所」は、企業の研修所として、実験的な試みを満載している地上 11 階の高層木造耐火建築物で、木造建築の将来の可能性を体現している。ダブルスキン、グリーン化など環境技術とともに、情報系と建築物との一体化など技術について高い評価が得られ、横浜に新たな名所が生まれた感がある。

同じく最優秀賞の「開成町庁舎」は、「あじさいパネル」をはじめとして、親しみやすい存在としてのデザイン的工夫もさることながら、県内自治体の進める地球温暖化対策のシンボルとしてのコンパクトな庁舎建築として、国内最先端の技術を駆使して、Nearly ZEB の認証を得た、地元の誇るべき希少な施設となっている。」



4 神奈川県建築コンクール 関係団体・審査委員一覧

(1) 主催者

神奈川県 横浜市 川崎市 相模原市 横須賀市 藤沢市 鎌倉市
厚木市 平塚市 小田原市 秦野市 茅ヶ崎市 大和市

(2) 協賛団体

独立行政法人 住宅金融支援機構 一般社団法人 神奈川県建設業協会
一般社団法人 神奈川県建築士会 一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会
一般社団法人 日本建築学会関東支部神奈川支所
一般社団法人 神奈川県商工会議所連合会
公益社団法人 日本建築家協会関東甲信越支部神奈川地域会 JIA 神奈川
一般財団法人 神奈川県建築安全協会

(3) 後援団体

神奈川新聞社 日刊建設工業新聞社 日刊建設通信新聞社
tvk (テレビ神奈川) 建通新聞社 日本工業経済新聞社

(4) 令和4年度 審査委員

住宅部門：内田 青蔵 神奈川大学 教授
山口 英生 一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会 副会長
古賀 紀江 関東学院大学 教授
鈴木 達也 神奈川新聞社 論説主幹
田井 勝馬 公益社団法人 日本建築家協会関東甲信越支部
神奈川地域会 JIA 神奈川 地域会会員
稲葉 佳彦 独立行政法人 住宅金融支援機構 地域業務第一部
横浜センター長

一般建築物部門：雨森 隆子 一般社団法人 神奈川県建築士会 副会長
大原 一興 横浜国立大学大学院 教授
鈴木 信弘 一般社団法人 日本建築学会関東支部 神奈川支所 幹事
古木 賢治 一般社団法人 神奈川県建設業協会 理事・建築委員
小川 嘉一 一般財団法人 神奈川県建築安全協会 常務理事
波多辺 弘三 一般社団法人 神奈川県商工会議所連合会
鎌倉商工会議所 専務理事